

二 日中諸案件交渉

114 昭和9年2月15日

在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国関税率の引上げ理由を説明した財政部覚書に対する我が方反駁意見書を中国側へ交付について

上 海 2月15日後発
本 省 2月15日後着

第九五號

貴電第三八號ニ關シ(關稅問題ニ關スル件)
其ノ後機會アル毎ニ支那側各方面ノ說得ニ努メ居ル處支那側覺書^(編註)ニ對シテハ當方ニ於テ逐一反駁ヲ加ヘタル意見書ヲ作成シ十四日須磨總領事ニ託シ不取敢支那側ニ交付方取計濟ニシテ最近ノ機會ニ汪精衛等ニ對シテ詳細說明スル筈ナリ意見書五部十六日聯絡船ニテ郵送ス
北平、南京へ轉電セリ

編注『日本外交文書』昭和期II第一部第二卷第593文書參照。

115 昭和9年2月23日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国関税率に関する我が方意見書に対し充分考慮を払うとの汪兆銘言明について

上 海 2月23日後発
本 省 2月24日前着

第一一六號
往電第九五號ニ關シ

一、本使ヨリ關稅問題ニ關シ先般貴方覺書ニ對スル我方ノ意見書ヲ送附シ置キタルカ既ニ閱覽セラレタリヤ又右ニ對スル御意見如何ト質問シタルニ汪ハ不取敢一通り拜見セリ又孔財政部長モ既ニ閱讀シタル由ニテ曰下關係ノ係員ニ於テ研究中ナルカ係員ノ概括的意見トシテ右意見書中「パーセンテージ」ノ點ハ考慮ニ值スルモ其ノ他ノ點ハ餘り参考ニ値セストノ話ヲ聞及ヒ居ル處尙篤ト研究セシムルコトニ取計ヒ置ケリト答ヘタルニ付

二、本使ハ一應右意見書ノ要點ニ付説明ヲ與ヘ尙重ネテ汪ノ言責及我方今回迄ノ忍耐ノ點等ニ言及シ更ニ先般石油等ムルコトニ取計ヒ置ケリト答ヘタルニ付

三、本電内容發表セサル様致度シ

ヲ本位トシテ調整ヲ加フル様取計フ可シト答ヘタルニ付本使ハ兩國ノ密接ナル關係ニ顧ミ自分ハ兩國ノ間ニ互惠稅率ノ必要ヲサヘ感シ居ル位ナルニ付相互ニ有利ナル様修改ヲ加フルハ勿論現在ノ不公平ノ點ヲ除去スル様特ニ注意セラレタシト述ヘ尙此ノ上トモ早目ニ解決スル様盡力方督促シ置ケリ

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

本電内容發表セサル様致度シ
116 昭和9年3月12日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国関税率に関する我が方意見書に対し財政部が回答作成中と唐有壬回答について

上 海 3月12日後発
本 省 3月12日後着

第一五五號

往電第一一六號ニ關シ

四、依テ本使ハ日本ヨリノ主要輸入品ハ何レモ支那ノ必需品ニ非スヤト突込ミタルニ汪ハ綿布等ノ商品ハ國內工業保護ノ關係モ有リト述ヘ尙之ニ關シ⁽²⁾、三押問答ヲ交ハシタルカ次テ汪ハ實ハ昨年ノ關稅率實施ニ依リ政府ハ相當ノ增收ヲ豫期シ居タルモノナル處世界的不況ト密輸入ノ增加ニ依リ豫期ノ目的ヲ達シ得サリシニ鑑ミ右稅率ニ付シテハ相當ノ調節ヲ加フル必要ヲ認メ居ル次第ニ付此ノ際日本側ノ意見書ニ對シテモ充分考慮ヲ拂ヒ相互ノ利益

十一日唐有壬ハ本使ニ對シ先般日本側ヨリ受ケタル關稅率覺書ニ對スル財政部當局ノ回答意見書汪兆銘ノ手許ニ送附

シ來リタルモ餘リニ抽象的ニテ要領ヲ得サリシニ付汪ヨリ之ヲ突返シ置キタルカ何レ其ノ中更ニ意見ヲ提出シ來ル筈ニ付其ノ上ニテ日本側ニ何分ノ返事ヲ爲ス積リナリト語レリ御参考迄(當方トシテハ來ル可キ改正ニ際シ我方希望品目ノ引下ラ實行セシムル様内面的ニ折衝セシメ居ル次第ナリ右御含迄)

本電内容發表セサル様致度シ

北平、南京へ轉電セリ

117 昭和9年4月21日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中國側における関税率改訂の基本原則に關し

關務署長内話について

上海 4月21日後発
本省 4月21日後着

第三二一號

往電第三一七號ニ關シ

二、三週間前堀内沈關務署長ニ就キ新税率改訂ニ關スル財政部ノ進備如何ヲ尋ネタル處沈ハ右ハ上局ノ命ニ依リ且下

118 昭和9年5月12日 在中国堀内臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国関税率に關し我が方引下げ希望案を關務署長に手交について

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

119 昭和9年5月17日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

関税率改訂に關する中國側の討議進捗状況を

テハ此ノ他ニモ多クノ引下希望品ヲ申立テ居ルモ大体此ノ邊ニテ我慢セシメ得ヘキ自分ノ見込ナレハ右希望カ容レラル様考量方御願シ度シト説明シ沈ハ研究スヘシト答ヘ居タリ

十二日本官沈關務署長ヲ訪ヒ關稅改正ノ進行振ヲ尋ネタル處沈ハ五月ノ統計ヲモ考慮ニ容ルル必要アリ急速ニ進行シ難ク又先日御話ノ根本原則(往電第三二一號)ニ付テハ更ニ孔部長ノ決裁ヲモ要スル關係アリ(尤モ民間ニテハ今ニモ新税率カ實施サルル様考量スヘキ旨述ヘ居ラレ孔部長モ其趣)ト述ヘタルニ付本官ヨリ本件ニ付テハ先月中旬有吉公使ヨリノ申入ニ對シ汪院長ハ近ク改正ノ運ニテ其ノ節ハ日本側ノ希望ヲ容ルル様考量スヘキ旨述ヘ居ラレ孔部長モ其ノ後公使ニ對シ同様ノ趣旨ヲ述ヘ且日本側係官ヨリ貴方係官ニ説明シテ可ナリトノ意図ヲ表明セラレ居ル關係モアリ

旁本官個人ノ試案トシテ日本側ノ希望ヲ參考ニ供シ度シトテ客年七月小野事務官持參ノ税率引下希望案(税率ハ適宜修正セリ)ノ英譯ヲ手交シ右ハ品目モ少ク且之ニ依レハ計算上ノ稅收減ハアルヘキモ引下ノ結果貿易增加シ結局ニ於テ却テ稅收ノ増加ヲ來スヘシト考ヘラル處我方商人トシ

進行中ナルカ準備ノ方針ハ内外各方面ノ材料ヲ集メ之ニ依リ過去一年間ニ於テ各品目ノ稅收減少ヲ見タルモノニ付其ノ原因ヲ確メ右減少カ高税率ニ基クモノ又ハ高税率及世界經濟不況ノ兩原因ニ基クモノト考ヘラルモノニ付テハ(經濟的原因ノミニ依ルモノヲ除外ス)孰レモ適當ノ税率引下ヲ行フト共ニ税率低キモノニ付テモ適當引上ヲ行フコトトスルモノナリト述ヘタルニ付堀内ヨリ右方針ニ依リ減率ヲ必要トスルモノノ内ニハ多數ノ日本品アル可シト思ハルルカ如何ト尋ネタルニ右ハ相當アル模様ナリト述ヘ居タルニ付堀内ヨリ参考ノ爲我方研究ノ結果提示スヘシト述ヘ置キタルカ其ノ節沈ハ前記調査ノ結果六月初迄ニ改訂具体案ヲ作り汪精衛及孔部長ニ提示スル運ヒナリト述ヘ居タル趣ナリ

同院一流ノ議論カ沸騰スヘク心配シ居レリ結局六月中旬ニ
ハ公布シ得ヘシト思考ス孫科ハ貴官ト昵懇ノ間柄ナレハ機
會アラハ同人ニ對シ增收ノ必要上改訂ノ已ムヲ得サル所以
ヲ説示セラルコト妙ナルヘシト述ヘタル後往電第一四〇
號ノ話合ヲ持出シ先日公使ニモ申入レタルカ密輸防止ニ關
スル日本側ノ意向承知シ度シト尋ネタルヲ以テ本官ヨリ貴
電第二三號ノ趣旨ニ依リ何レ充分ナル改訂行ハルレハ兩國
貿易モ常態ニ歸スヘク自然密輸モ減スヘシト簡單ニ應酬シ
置キタリ

支、北平ヘ轉電セリ

120 昭和9年5月24日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

主要品目における関税率改訂の見通しを財政

部總務司長内話について

南 京	5月24日後発
本 省	5月24日後着

第五三六號

大臣發支宛電報第一五八號ニ關シ

二十二日南京事件賠償金支拂督促ノ序ヲ以テ許建屏ニ就キ
確メタル所大要左ノ如ク述ヘ居タリ(許ノ話ニモアリ又常
識的ニテ遽ニ信ヲ置キ難キモ何等御参考迄)
一、税率委員會ノ成案ハ少々遲レテ二、三週間内ニ財政部長
ニ提出サルル筈ナルモ尙決定セサル分相當アリ又事情判
明スルニ伴ヒ改案シ居ル爲實ハ各關係國ヨリ頻リト内容
ヲ問合セ來ルモ未タ確定的ノ返事ヲ爲シ得サル次第ナリ
三、主ナル品目ニ關スル改正左ノ通

(イ)最初「ペトロル」ニ對スル税率ノ引上ヲ考慮シタルモ

(往電第四八九號末段)最近(二月引上ケタルノミナレ

ハ此ノ上ノ引上ハ却テ收入ノ減少ヲ來スト云フ議論出

テ之ヲ取止メタリ

(ロ)砂糖ニ付テ引下ヲ見ルコト論無ク又石炭モ同様引下ケ
ラルヘシ

(ハ)問題トナレルハ綿製品ニテ細糸物ハ支那綿業ト競争セ
サルヲ以テ其ノ税率引下ケラルヘキモ粗布類ニ關シテ
ハ引下不可能ナルノミナラス場合ニ依リテハ支那綿業
保護ノ見地ヨリ引上ノ已ム無キニ至ルヤモ知レス
(二)化學製品ハ高率ナリシ爲却テ支那麻藥工業等ニ著シキ

打撃ヲ及ホシ居ル關係モアリ大部分引下ケラルヘシ
(イ)羊毛製品ニ付テハ英國側ヨリ執拗ニ引下要求アリ支那
産業ト餘リ關係無ケレハ引下行ハルヘキモ少額ニ止マ
ル見込ナリ
支、北平ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

121 昭和9年5月25日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

中國關稅率改訂において予期に反し引下げな
き場合には日英共同で引下げ要求方在中国英

國商務參事官提議について

南京 5月25日後発

本省 5月25日後着

第五五一號
第五五六號二關シ

「ビル」二十四日本官ヲ來訪シ上海ニ於ケル二、三支那
責任者其ノ他關係英商人等ノ聞込ヲ綜合スルニ新關稅ハ六
月十六、七日ヨリ實施セラル見込ノ所立法院方面ニハ各

リタル譯ナリ唯支那ノコト故ニ最後ノ發表迄ハ信ヲ置キ難
ク假ニ豫期ニ反シ全然引下無カリシ場合日本側ハ如何ナル
對策ヲ有スヘキヤト繰返シ尋ネタルヲ以テ本官ヨリ其ノ際
ハ自ラ方策ハ有ルヘキモ今ノ所何トモ申上ヶ兼ヌト應酬セ
ル處「ビ」ハ今迄ノ引下要求ニ付テハ日英共同シ得サリシ

モ今回ノ改訂カ引下トナラサル場合ニハ日英共同ノ「メジユア」ヲ取り度シ蓋シ最近三箇月ノ支那貿易總額中米國ハ三割佛國ハ八分、日英ハ夫々一割ヲ占メ居ル狀態ニテ日英兩國カ略同様ノ立場ヲ示シ居レハナリト述ヘ居タリ
支、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

122 昭和9年5月29日 在中國境内臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)

關稅率改訂に當たつては我が方引下げ希望を
充分考慮するよう関務署長に要望について

上 海 5月29日後着
本 省 5月29日後着

第四四一號 貴電第一五八號ニ關シ(關稅改正問題)

二十九日本官沈關務署長ト會談要領左ノ通

一、本官ヨリ商人側ニテハ貴國當局筋ノ消息トシテ新關稅ハ六月中旬ヨリ實施セラルヘシトノ疇アリトテ其ノ後ノ進行振ヲ尋ネタル處沈ハ先日説明セル原則(往電第三二一

號)ハ大体決定シタルモ(右原則ハ收入主義ナルカ右ノ外或程度ノ產業保護主義モ加味セラレタリト附言セリ)財政廳長會議ノ爲豫定通り進行セス三分ノ一位ノ品目ニ付委員會ノ第一讀會ヲ終リタル丈ケナレハ今後引續キ審議ヲ急ク積リナルモ行政院及立法院ノ議ヲ經ル必要モ有リ実施ハ七月下旬位トナルヘシ尤モ昨(年)新關稅ヲ立法院ニ提出シタリトセハ凡テニ法外ナル高率ヲ課スヘシトノ議論出テタルヘキカ一年間ノ實績ニ依リ最近立法院ノ極端論者ト相當疏通ヲ計リ居ル爲斯ノ如キ極端ナル反對ハ無カルヘシト思考スト述ヘタリ
二、本官ヨリ先日呈示ノ日本側希望ニ付テハ引下ヶ方考量セラレ居ルヤト尋ネタルニ沈ハ綿布ニ付テハ一般的ニ引下ケル時ハ却テ反對者ノ引上論ヲ誘致スヘキニ付之ヲ緩和スル爲或物ヲ引上クルモノモアリ海產物其ノ他ニ付テモ相當引下方考量中ナルカ要スルニ自分トシテハ前述原則ニ基キ稅率ノ調節ヲ計リ居ル建前ニテ進ミ度シ日本側トノ接觸ニ依リ引下ヶ方印象ヲ與フル時ハ各方面ノ反對ヲ招ク惧アルニ付其ノ點ハ注意アリ度シト述ヘタルニ付本官ヨリ右ハ同感ナルカ先日差出シタル品物ハ我

方最小限度ノ希望ナレハ充分考量セラレ度ク右ニ關シ自分ノ研究セル數字(新稅率表ノ各品目又ハ各類別ニ付本年一月乃至四月ノ輸入額カ昨年同期ニ比シ又昨年上半期ノ輸入額カ下半期ノ輸入額ニ比シ減少セルコトヲ示セル表)ニ依レハ日本側希望ノ品物ハ何レモ高率ノ爲輸入激減セルモノナレハ之ヲ引下クルコトハ貴方原則ニモ合致シ之ニ依リ增收ヲモ得ヘシト說明シ右表ヲ手交セリ

三、尙南京發閣下宛電報第五三六號ニ依レハ第五五一號等ヲ含ミ羊毛製品、石油、化學製品、麥粉、機械其ノ他ニ付引上ケ又ハ引下ケノ模様ヲ夫レト無ク尋ネタル處之等ハ孰レモ確定シ居ラサルヤニ見受ケラレタルニ付本官ヨリ例ヘハ商人側ニテ贈スルカ如ク羊毛製品ノ引下ケヲ見ルハ結構ナルモ同品ハ昨年新稅率ニ於テ引上ケラレス且前記表ノ數字ニ依ルモ新稅率實施後却テ輸入增加セルモノナレハ之ヲ引下クルモ同時ニ日本ニ關係アリ而モ新稅率ニ依リ輸入減少ヲ示シ居ルカ如キ品物ヲ引下ケサルニ於

要望について

キタリ(沈ハ石油ニ付テハ下層階級ノ負擔増加又煙草ニ付テハ國內外國工場製品アル事ヲ考量ニ入レル要有リト述ヘ居タリ)
北平、南京ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

123 昭和9年6月8日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

我が方要望の關稅率緩和は實施困難である旨
汪兆銘示唆に対し有吉公使より實現方を強く

要望について

南 京 6月8日後発
本 省 6月8日後着

第六二四號 有吉公使ヨリ左ノ通
貴電第一七三號末段ニ關シ(支那關稅率改訂一件)

七日本使、汪兆銘ト會見ノ際
一、本使ヨリ貴下ノ盡力ニ依リ最近無線連絡カ成立シ又南京事件ノ賠償モ一部送金ヲ受ケタルカ斯ノ如キ懸案カ順次解決スルコトニ對シ我政府ニ於テモ至極欣幸トシ居ル處

二 日中諸案件交渉

(欄外記入)

我方ノ重キヲ置ク關稅率問題ハ其ノ後如何ニ進捗シ居ルヤ我方ハ貴下累次ノ御話ニ對シ多大ノ期待ヲ懸ケ居リ又先般本使、孔財政部長トモ意見交換ヲ爲シタル次第モアリ(往電第三一七號)日本ノ希望カ相當容レラルモノト豫期シ居ル旨述ヘタルニ

三、汪ハ本件ハ目下關係當局ニ於テ折角研究中ナルカ調査ノ結果ニ依レハ日本品ノ輸入ハ昨年ハ一昨年ニ比シ若干増額シ居リ増稅ニ依ル影響ハ餘り大ナラサル模様ナル處⁽²⁾一方支那トシテハ國內ノ商品ニ對シ相當保護ノ必要モアリ將來ハ日本ノ商品ニシテ支那ニ無キ物、支那ノ商品ニシテ日本ニ無キ物ヲ相互ニ成ルヘク多ク購買スル様双方ニ於テ努力スルコトシ度シトテ暗ニ國內ニ生產アル商品ト同種類ノ日本輸入品ニ對スル稅率ハ餘り減額シ得ストノ態度ナルカ如キ口吻ヲ示シ又支那ハ目下密輸入ノ取締ニ多大ノ苦心ヲ爲シ居レルカ此ノ際日本側ニ於テモ輸出地ノ取締ニ協力セラレ度シト申出テ尙同席ノ唐有壬ヨリ支那全國ノ輸入ハ一昨年ノ八億九千萬金單位ニ對シ昨年ハ六億九千萬金單位ニ減額セルモ關稅收入ハ約三千萬元增加セルコト、日本ヨリノ輸入ハ却テ昨年ハ一昨年ニ

124

昭和9年6月9日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

日本品の輸入が高稅率のために激減している
事情を指摘し差別的な關稅率の是正を唐有壬
に要望について

上海 6月9日後発
本省 6月9日後着

(1) 第四六六號

南京發閣下宛電報第六二四號ニ關シ(支那關稅率改定ノ件)

八日堀内ヲシテ唐有壬ニ會談セシメタル結果左ノ通(尙彭學沛ニ對シテモ七日夕同様ノ趣旨ヲ申入レシメ置キタリ)
一、堀内ヨリ關稅問題ニ付テハ汪院長ニ於テ從來政府部内ノ困難ヲ押シテ盡力セラレ居リ其ノ結果先般公使歸朝ノ際院長ヨリ我方希望ニ對シ相等^(音カ)満足ヲ與ヘ得ル見込ナル旨確言セラレ居タルニ拘ラズ昨日御話ノ模様ニテハ恰モ我方希望ノ大部分カ認容セラレサルカ如キ印象ヲ與ヘ公使ニ於テモ憂慮セラレ居ル處右院長ノ話ハ政府ノ決定ニ問テ孔部長ト話合ヲ續ケ居リ最近孔ハ院長ニ對シ財政部審

議ノ結果ニ依レハ支那ニ生產ナキ特殊ノ日本品例ヘハ海產物ノ如キモノノ稅率ヲ引下ケルコトニハ異存ナキモ⁽²⁾其ノ他ノモノニ付テハ產業保護ノ必要アルノミナラス昨年及一昨年ノ支那輸入額及稅收ノ比較ハ部長ヨリ公使ニ話サレタル如ク右ニ依レハ新稅率カ特ニ日本品ニ對シ大打擊ヲ與ヘタリト認メラレサルヲ以テ此等物品ニ對スル稅率ハ左迄引下ケ難シト説明アリタルニ基クモノナリト述ヘタルニ付堀内ヨリ右孔部長ノ意見ハ汪院長ニ於テ贊成セラレタリヤト念ヲ押シタルニ唐ハ院長ヨリ再考方ヲ申入レ財政部ニテ更ニ研究中ナルカ昨年度ノ日本品支那輸入カ一昨年ニ比シ若干增加シ居ル爲財政部専門家ヲ說得スルコト困難ナル狀態ナリト述ヘタルニ付堀内ヨリ我方ノ調查ニ依レハ右支那側ノ數字ト異リ昨年度ハ一昨年ヨリ約一億元減少シ居ルコト(對滿貿易ヲ考慮ニ入レル時ハ五六千萬元)ヲ表ニ依リ指摘シ且日本品ノ輸入カ高稅率ノ爲ニ激減シ居ル事情ニ付我方作成ノ表ニ依リ往雷第四四一號關務署長ニ對スルト同様ノ説明ヲ爲シ更ニ我方ノ引下ケ希望ヲ示セル表(往電第三三九號)ヲ手交シタル上支那側ニテ原產國標記無線聯絡賠償金等ノ問

比シ若干增加セルコト、密輸入ハ滿洲方面ヨリノモノ多ク特ニ長城線ヨリ來ルモノハ取締ノ途ナキ現狀ナルコト等ヲ説明セリ

依テ本使ハ右日本品ノ増加ノ點ニ付テハ(當方調査ノ數字ハ減少シ居ル趣ヲ斷リタル上)事變後ノ時局影響ノ緩和等ヲ述へ些少ノ増額ニ依リ直ニ高率關稅ノ影響少シト見ルノ誤レル點ヲ指摘シ尙密輸入ハ香港方面ヨリノモノ鮮カラサル由聞及ヒ居ルコト、其ノ增加カ不當ナル高率關稅ニ起因スル點大ナルコト、長城線方面ハ通車問題ノ解決ト同時ニ設關實施(六日黃郛ノ談ヲ引用シニ依リ事實上ニ改善セラル可キコト等ヲ説明シ此ノ際不當ナル高率關稅ノ改正カ密輸入防止ノ重大要件タル可シト述ヘ尙我方ノ要求カ現在ノ不公平ナル稅率ノ改正ニアル次第ヲ告ケ重ネテ汪ノ既往ニ於ケル言明ヲ引用シ我方ノ期待ヲ裏切ルコト無キ様努力ヲ求ムル旨強ク申入レタルニ汪ハ未タ修正案ハ決定シ居ル次第ニアラス目下極力研究中ナルニ付貴公使ノ御話ニ對シテハ充分注意シ考慮スヘシト答ヘタリ

北平へ轉電シ支へ轉報セリ

題ヲ解決シタルモ日本側トシテハ國民政府排日策ノ現レタル差別待遇ノ新税率ノ是正ヲ一層重要視スル次第ニシテ本問題ヲ解決セサレハ前記諸問題解決ノ好影響ハ大ニ減殺セラレ延テ今後ニ於ケル當方ノ親善策遂行ニ對スル多大ノ障害ヲ與フル惧アル次第ヲ説明シテ我方希望達成方ニ關シ充分盡力ヲ依頼シタル處唐ハ之ヲ承諾セリ

三、次テ堀内ヨリ冒頭電汪院長ニ於テ日支兩國ハ夫々相手國ニ生産セサル品物ヲ多く賣込ム様努力スルコト必要ナリト述ヘタル點ニ付確メタル處唐ハ右ハ支那側ニ於テ輸入超過ヲ緩和スル爲列國ニ對シテ懇意シ居ル處ニテ關稅問題ト直接ノ關係ナシト述ヘタルニ付堀内ヨリ財政部邊ニテハ或ハ入超緩和ノ爲高税率ヲ主張スルヤモ知レサルモ高税率ニ依ル輸入抑制ハ當然ニ輸出ヲ減退セシメ其ノ目的ヲ達セサルコト「ボイコット」ニ依ル對日輸出減退シ支那ノ購買力ヲ減退セシメ一般不況ヲ招來セルニ徵シテモ明カナリト述ヘタルニ唐ハ同感ノ意ヲ表シタリ

三、尙堀内ヨリ新税率ノ調整ニ際シ財政部ノ主張スル保護策ヲ全然沒却スルハ困難ナル可キモ例ヘハ綿製品ニ付云ヘハ支那紡績保護ノ爲綿製品ノ全部ヲ高率ニスル必要ナク

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

(欄外記入)

最モ近接有利ノ地位ニアル我國ノ對支貿易ニ付テハ充分ニ研究シ之ガ伸長ヲ期スルノ要ナキヤ

125 昭和9年6月18日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

閥税率改訂に際し日本側希望を充分考慮すべ
きとの蔣介石指示に基づき再度検討を行う旨

唐有壬内話について

南 京 6月18日後発
本 省 6月18日後着

第六八六號

支發貴大臣宛電報第四六六號(支那關稅率改訂ノ件)(二關シ)

十八日唐有壬ハ本官ニ對シ大要左ノ如ク述ヘ居タリ
十二日廬山ニ於テ蔣介石ニ對シ關稅引上ニ關スル日本側主張及稅收ヲ調整スル爲現行稅率改訂ニ付説明シタル處蔣ヨリ日本側ノ希望ヲ充分考慮スヘキ旨ノ話アリ此ノ趣旨ニテ財政部ト今一應打合ヲ遂クル手筈ナルモ今ノ所技術的ニハ冒頭電報(ノ通)ノ狀態ニアリ

支 北平へ轉電セリ
上海へ轉報アリタシ

少クトモ晒、捺染其ノ他ノ高級品ニシテ支那ノ製造シ得
サルモノハ之ヲ相當引下クルモ何等保護政策ニ反スル次
第二非ス右ハ單ナル自分ノ思付ニテ政府トシテハ綿布稅率全部ノ引下ヶヲ希望シ居ルコト勿論ニシテ更ニ日本紡
績ヲシテ支那紡績ニ對スル好意的態度ヲ維持セシムルコトカ支那紡績ノ維持發達ニ是非共必要ナル事實ニ鑑ミ綿布關稅引下問題ハ單ナル關稅技術乃至保護關稅ニ關スル空論ノミニテ片付ケ得サル大問題ナルノミナラス綿布關稅ヲ如何ニスルカ毛織物、石油、機械類等主トシテ英米等ノ外國ヨリ輸入スル重要品ニ對スル稅率ノ盛リ方ト關聯シテ日本品ニ對スル差別待遇ノ問題ト機微ナル關係ヲ有スル次第ナリトテ前記往電三ノ陳ニ對スル說明ヲ繰返シ置キタル趣ナリ

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

126 昭和9年6月19日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

閥稅率改訂案においては日本側希望が相當容認された旨閥務署長内話について

南 京 6月19日後発
本 省 6月19日後着

第六九三號(極秘)
往電第六八六號ニ關シ

十九日本官ニ對シ沈關務署長ハ絶對極秘ノ含ヲ以テ左ノ通り内話セリ

稅率委員會ノ討議ハ全部決定シ既ニ財政部ニ廻附セラレ其ノ一部ハ本日ノ行政院會議ニ附議セラルコトトナリ自分ハ右會議及立法院會議ニ茲三週間計リ連續出席シ被告人ノ如ク質問ヲ受クルコトトナレルカ自分ハ豫テ堀内書記官トノ會見ニ於テモ本稅率改訂ニ關シ支那側ハ日本側ニ對シ餘程ノ好意ヲ示スノ要アリト主張シ來リタル次第ナルカ左リトテ同書記官カ提示シタル日本品全部ニ付引下ヲ行ハハ大體一年一千萬元ノ稅收ヲ犠牲ニ供スルコトトナルヘク甚ダ急激ナル變化ヲ來ス譯故ニ今回ノ改訂ニハ大体六百萬元見

當ノ減收ニ止ムルコトトシ今後更ニ漸進的ニ經過ヲ見テ改訂ヲ行フコトニ決シタル處差向キ全部ニハアラサルモ綿布及海產物ニ付テハ大体相當ノ引下ヲ行ヒ其ノ他ニモ貴方ノ希望ヲ餘程參酌シ居ル次第ナリ

尙沈ノ立場モアルニ付本電ハ絶對極秘扱ニセラレタ支、北平へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

127 昭和9年6月20日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

行政院會議における関税率改訂案討議の結果
日英両国に關係ある品目については若干の低減を決定の旨唐有壬内話について

南京 6月20日後発
本省 6月21日前着

第七〇六號(至急、極秘扱)

往電第六九三號ニ關シ
本二十日唐有壬カ絶對極秘ノ含ヲ以テ本官ニ内話セル所左ノ通

ラルルヤモ計ラレサルモ自分等トシテ是非共原案ヲ推シ度キ所存ナリ
尙本電ハ絶對極秘扱ニセラレ度シ
支、北平ニ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

128 昭和9年6月22日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

関税率引下げに関する唐有壬説明に対し我が
方希望に遠く及ばないことを指摘し再考方嚴
重申入れについて

上海 6月22日後発
本省 6月22日後着

第五一〇號(極秘)

⁽¹⁾南京發閣下宛電報第六九三號及第六九四號ニ關シ
^(三九九)往電第三三九號支那側ニ内示セル我方希望實現ノ結果支那側ノ減收ハ大體千三百萬弗トナル當方ノ計算ナルヲ以テ支那側改正案カ沈署長ノ説明ノ如シトセハ大體我慢シ得ルヤニ考ヘラレタルモ右ハ唐有壬ノ説明ト合致セサルヤニモ

十九日ノ行政院會議ニ税率改訂案附議セラルルヤ實業部ハ產業保護ノ見地ヨリ財政部ハ稅收確保ノ爲夫々論戰ヲ鬪ハシ汪院長及自分ヨリ日、英、佛、蘭、各國ヨリノ抗議等ヲモ説明シ強ク主張シタル結果大體日英兩國ニ關係アル項目ニハ些少乍ラ低減ヲ行フ方針トナリ米國關係貨物ニ引上ヲ行フコトトナレリ即チ綿製品海產物ノ大部分ニハ例ヘハ十五「パーセント」ヲ二十「パーセント」ニスル等ノ低減ヲ行ヒ棉花(主トシテ米國印度ヨリ輸入)ニハ百「挺」三、五〇金單位ヲ四、〇〇金單位ニスル程度ノ引上ヲ爲シ鐵錫等ノ製品(主トシテ米國品)ト人造肥料等ノ化學製品ニハ是亦從價ノ五「パーセント」等ノ引上ヲ行ヒ砂糖ニ付テハ大体引下ノ案トナリ居レルモ激論沸騰決定ヲ見ス或ハ据置トナルヤモ知レス大體以上ノ案カ昨十九日ノ行政院會議ヲ通過シタル處日本側ニハ充分ノ満足ニハ行カサル可ク特ニ稅收全體トシテハ多少増收ヲ見ル様鹽梅セラレ居ルニ付低減率ニ不滿足ナル可キカ英國ト共ニ日本側ノ主張ニハ充分ノ考慮ヲ加ヘタルハ御諒察アリ度シ尤モ以上ノ案トテモ中央政治會議(來週トナラン)ヲ通過ノ上立法院ニ廻付ノ際ハ或ハ更ニ重大ナル變更(立法院ハ低減ニハ反対ノ者多シ)ヲ加ヘ

存セラレ旁堀内ヲシテ直ニ赴寧更ニ具體的ノ説明ヲ求メ場合ニ依リ本使赴寧ノ豫定ニテ唐ノ都合ヲ確カメタル處唐ハ二十一日來滬來訪シタルニ付會談(堀内同席)セル結果左ノ通
一、唐ヨリ個人ノ資格ニテ冒頭電報須磨ニ對スルト大體同様ノ説明ヲナシタルカ其ノ間當方ノ質問ニ答ヘタル處ヲモ綜合スレハ(1)綿布ハ稅番三九乃至七〇ノ全部ニ付大體從價五分ノ引下(改訂稅率ハ大部分從價稅率トナリ居タルカ右ハ從量稅ヲ從價稅ニ直シタルモノナリヤ又ハ之ニ基キ更ニ從量稅ヲ算定スルモノナリヤ明カナラサル趣)
(2)海產物ハ鮑昆布及外二種ニ付或ル程度ノ引下ヲ行ヒ(ハ右ノ外紙木材其ノ他ニモ引下ケタルモノアリ)(右稅率引下ニ依ル減收ハ大體三百五十萬弗此ノ點ニ付冒頭電沈ノ説明ヲ含ミ念ヲ押シタルモ右數字ハ誤ナシト申シ居タリ又一九三二年ノ貿易ヲ基礎トセルコトハ當方ト同様ナル趣)(ハ稅率引上ヲ行フモノハ棉花(百「キロ」三、五金單位ヨリ五金單位)鐵及鐵製品並ニ人造肥料從價十分其ノ他ニシテ之ニ依ル增收千三四百萬弗ナレハ改訂稅率ハ大體千萬弗ノ增收ヲ計算シ居ル趣ナリ)(行政院會議ノ

模様及立法院ニ於ケル困難ニ付須磨ニ對スルト同趣旨ノ
説明ヲ爲シタル後場合ニ依リテハ前回ノ如ク立法院ノ通
過ヲ俟タス公布實施スルコトナルヤモ知レスト述ヘ居
タリ

二、右ニ對シ本使ヨリ關稅問題ニ關スル貴官及汪院長等從來
ノ努力ハ本使ノ充分感謝スル所ナルモ曩ニ堀内ヨリ内密
呈示セル我方希望ノ稅率引下實現ノ結果ハ大体ニ於テ千
二百萬弗見當ノ減收トナル當方ノ計算ナル處只今ノ御說
明ニテハ引下ノ品目及稅率ニ於テ何レモ我方希望ノ三分
ノ一モ滿タサレ居ラサルモノト思ハルルカ右我方希望ハ
政府部内及民間ノ強キ意向ニ拘ラス當方ニ於テ最小限ニ
切詰メタルモノナレハ切メテ其ノ大部分カ容レラレサル
限り本問題ノ圓滿ナル解決ハ到底困難ナルノミナラス貴
方ノ困難ナル事情ヲ考ヘ日本側トシテハ一年有餘モ改訂
ノ実施ヲ待チ居リ其ノ間本使及政府ニ於テ新聞ノ抑壓民
論ノ抑制等多大ノ困難ヲ感シ來リ居リ殊ニ先般本使歸任
ニ先チ汪院(長)ヨリ關稅問題ニ付テハ日本側ノ希望ヲ大
部分ヲ満足セシメ得ヘキ旨言質ヲ與ヘ居ラレタル次第モ
アリ

129 昭和9年6月27日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

關稅率改訂において日本側要望を完全に満た
すことが困難な中國側諸事情につき了解方
兆銘要望について

上 海 6月27日後発
本 省 6月27日後着

⁽¹⁾第五十九號

本使二十六日午後汪兆銘ト會見(南京發閣下宛電報第七三

二號冒頭御參照、我方ハ堀内、有野、先方ハ唐有壬、黃朝
琴同席ス)セルカ先ツ藏本失踪事件ニ關スル支那側ノ盡力
ニ對シ簡單ニ挨拶ヲ述ヘタル後

一、本使ハ昨年來懸案ノ關稅率修正ノ成案出來タル由聞キ及
ヒタルコト及我方關心ノ大ナル次第ヲ前置シ今回ハ特ニ
本問題ノ爲來寧セリトテ先方改正案ノ内容ニ付内示方申
入レタル處

二、汪ハ先ツ本問題審議ノ經過ニ付打明ケ御話シスヘシト前
置シ行政院ニテハ本修正案ノ作成ニ付三ツノ事態ヲ考慮
ノ基礎トナセリ即チ(一)國內當業者方面ヨリノ熱心ナル陳

情及實業部ノ强硬ナル主張モアリ國內產業ノ保護ノ點ニ
付注意シタルコト(2)外交部トシテハ各國輸入商品ニ對ス
ル影響及利害ノ點ヲ考ヘ特ニ日本品ニ對シテハ昨年以來
貴公使ノ申出及貴公使ニ對スル自分ノ約束等ニ鑑ミ出來
得ル限り日本側ノ希望ヲ容ルル様調整ニ努力シタルコト
(3)財政部トシテハ東三省ノ稅收無クナリタル爲之カ補填
ト一般增收ヲ計ル必要ニ迫ラレ居ルニ付此ノ點モ考慮ニ
入レタル事ニシテ右三者ハ相互ニ利害相反スル點有ル爲
之カ調節ニ非常ニ苦心セリトテ關係部局トノ折衝ノ狀況
等ヲ説明シ

三、更ニ汪ハ今回ノ成案ハ兎ニ角右三點ニ對シ夫々或程度ノ
満足ヲ與フル様調節、作成シタルモノナルカ右ノ如キ複
雜ナル關係上同時ニ何レニモ充分ナル満足ヲ與ヘ得サル
事ハ又已ムヲ得サル次第ナルモ日本側ノ希望ヲ成ル可ク
多ク容レ所謂不公平ヲ徐去スル爲日本ノ關係品ヲ相當減
率シ之ニ依ル減收ヲ補填スル爲日本ニ關係無キ品物ノ稅
率ヲ引上ケタルカ右ハ財政、實業兩部ノ強キ反對ヲ押切
リタル結果ナレハ貴公使ニ於テモ右ノ事情特ニ御諒察ヲ
請フト述ヘ尙日本品ニ對スル減稅ハ海產物類ハ從價三

此ノ際前記ノ如キ改訂稅率カ公布實施セラルルニ於テハ
本国政府及民間ノ不滿頗ル大ナルモノアルヘク其ノ結果
從來貴官及汪院長等ニ於テ御盡力ノ結果圓滿ニ解決シタ
ル原產國標記問題無線連絡問題賠償金支拂問題等ノ好影
響ハ總テ消失スルコトトナリ今後ニ於ケル兩國ノ關係ニ
付憂慮措ク能ハサル次第ナルニ付右ノ點篤ト御考慮ノ上
此ノ際貴官ノ思付トシテ蔣介石汪院長等ニ於テ關係各機
關ヲシテ更ニ我方ノ希望ヲ容レシムル様説服方ニ付今一
段ノ努力ヲセラル様盡力方依賴シタシト述ヘタル處唐
ハ右ノ御意見ハ全然同感ニシテ特ニ自分ヨリ行政院會議
ニ於テ充分説明シタルモ(汪院長モ同様説明セリ趣)反對
論ヲ説(服)シ得サリシ次第ナルカ右ノ趣ハ汪院長ニモ說
明シ更ニ努力スヘシ尤モ今ノ所之以上ノ結果ヲ得ルハ頗
ル困難ナリト述ヘ居タリ

三、貴電第一九二號ハ右會談後接到セルニ付本使ハ汪精衛ノ
都合ヲ確メ明日又ハ明後日中ニ赴寧スル豫定ナリ

北平、南京へ轉電セリ

○%乃至五%ニ減額シ又綿布類ハ國產品トノ關係有ル
(爲)相當減額セリ(其ノ際唐ハ此ノ外木材及紙ノ或物モ
相等減額セリト補足セリ)ト語レリ

(3)

四、依テ本使ハ本問題ニ對スル長期間ニ亘ル我方ノ忍耐昨年
以來ノ汪ノ聲明及兩國ノ關係ニ及ホス影響等ノ點ニ付重
ネテ説明シタル上我方ハ貴下ノ好意有ル言明ニ信賴シ一
年餘モ荏苒待チ居リシ事トテ朝野ノ期待モ大ナル折柄改
正案カ甚シク不満ナルモノナルニ於テハ失望モ亦大ナル
ヘク其ノ結果双方共更ニ困難ナル事態ヲ惹起ス惧無シト
セス就テハ豫メ今尠シク具体的ニ例ヘハ減税ニ依リ日本
品ニ對スル稅收減額カ大約幾何ニナル等概略ノ數字ニテ
モ示サレ度シト述ヘタルニ

五、汪ハ稅則委員會ニテハ減税ニ依ル日本品ニ對スル減收大
約三百五十萬元位ナリト説明セルヲ聞キ及ヒタルカ一方
立法院側ニテハ綿布類ノミニテモ日本品ノ負擔カ千萬元
以上輕減セラルヘシトテ減税ノ原案ニ反對ノ意ヲ示シ居
ル由聞込ミ有リト語リタルカ

(4)
(右ハ同日立法院委員ト非公式折衝ヲ行ヒタル唐ノ報ニ
基クモノナリ)其ノ際唐ハ傍ヨリ右三百五十萬ノ内ニハ
タシト申入レタル處

六、汪ハ各個ノ貨物ニ對スル減税率ハ早速取調ヘノ上内報ス
ヘキ處(同日夜汪ハ本使ヲ招宴ノ際右減税率ハ取調ヘ次
第唐ヨリ堀内ニ内報スヘシト重ネテ約シ右查報方法ニ付
兩人ニ於テ打合セラレセリ)改正案ハ既ニ行政院ノ手ヲ
タシト申入レタル處

(5)

離レ中央會議モ通過シテ立法院ニ提議シアルニ付此ノ際
之ヲ取戻ス餘地無キノミナラス立法院側ヨリハ極力減稅
ニ反對シ居ル次第モ有リ原案通り通過スヘキヤモ懸念シ
居ル次第二テ此ノ上減額等ノ餘地ハ素ヨリ無ク自分トシ
テハ何トカ原案ノ無修正通過ヲ期スルニ努力シ居ル次第
ニ付事態御諒察ヲ請フトテ頻リニ懇願的態度ヲ示シタリ
ベ、尙其ノ節堀内ノ思付ニ依レハ前記立法院ニ於テ綿布減
稅ノ減收額一千萬元以上ナリトテ反對シ居ルハ恐ラク改
正稅率ニ於テハ綿布(稅番三九乃至七〇右品物ノ一九三
三年度ニ於ケル輸入總額約二千五百萬元)ノ稅率ヲ一律
從價二割乃至二割五分ニ減率シ居リ(往電第五一〇號ノ
一)(參照)

(6)
財政部ハ右ハ現行新稅率ハ從價二割五分乃至三割(稅收
約七百萬元トナル譯ナリ)ナレハ改正稅率ハ之ニ比シ大
體二割程度ノ減率ナレハ減收僅カ二百五十萬元位ナリト
説明シ居ルニ對シ立法院側ニ於テハ現行新稅率ニ依ル稅
收(現行稅率實際從價割合七割トシテ)一千七百萬元ナレ
ハ之ヲ從價二割乃至二割五分トセハ改正稅率ニ依ル稅收
六百萬元差引一千萬元以上ノ胡魔化シアリト主張シ居ル

二十六日閣下ノ汪院長トノ會談ニ關聯シ唐有壬ヨリ本二十
八日別電第七三二(翁略)號ノ通り日本關係稅番修正率ノ手交ヲ受
ケタル處其ノ際唐ハ

一、綿布中約八割及海產物中六割乃至八割ハ日本品ナルヘキ

ニ付以上ノ引下ニ依リ日本關係輸入稅ノ減收ハ或ハ相當

額ニ上ルヤニモ存セラル處右ニ付テハ日本側ニ於テモ

研究ヲ遂ケラレ度シ

二、汪院長ニ於テモ閣下段々ノ御努力ニ對シ今一段ノ引下ヲ

試ミ度ク實ハ昨廿七日孫科トモ懇談シ見タル程ナルカ立

法院ニハ引上論盛ニシテ原案通ノ引下スラ或ハ甚シク困

難ナルヤニ認メラレタルニ依リ廿九日ノ立法院會議ニ於

テ甚シキ引上主張セラルニ於テハ又復之ヲ中政會議ニ

附議スルノ方法ニ依リ緩和セント企テ居ル次第ナルカ

(往電第七二一八號)右方法ハ如何ニモ立法院ヲ無視スルコ

トトナリ今後思ハシカラサル影響ヲ殘スヘキニ付却テ立

法院ノ議ヲ經スシテ此ノ儘公布スルノ方法ヲモ考ヘ居ル

程ナリ殊ニ目下華北滯在中ノ孔祥熙モ原案ヲ通シ度爲右

方法ヲ主張越シ居ル次第ナルカ實ハ之トテ多少ノ無理ア

リ關係者ニ於テ慎重考慮中ナリ

往電第七三一號ニ關シ

本二十九日夜立法院會議終了後外交委員長傅秉常本官ニ對
シ左ノ通内話セリ

一、二十八及二十九兩日ノ立法院會議ハ如何ニモ關稅案ヲ議
スル様ニ見セ實ハ七月一日ヨリ休暇ニ入ルニ付其ノ前憲

法第二草案議了ヲ急キタル次第ニテ關稅修正案ハ既ニ二

十四日立法院ニ内々同附サレ外交財政兩委員會ニテ一應

眼ヲ通シタル處先ツ外交委員會ニ於テハ同修正案カ日英

兩國關係輸入品ニ引下ラ行ヒ他ノ外國品ハ(脫)顧ミテ偏

頗ナル修正ナリトノ公平論出テ又財政委員會ハ馬寅初、
張維翰、鄧召蔭等ニ於テ更ニ引上ヲ主張スル等反對論極

メテ激烈ナリシ爲此ノ分ニテ九十名ノ立法院會議ニ附議

センカ議論沸騰ノ爲ニ原案ハ臺ナシトナリ要スルニ引下

ハ反對ヲ受ケ全部引上ニ傾クヘキ形勢ニアリ

二、依テ孫科ハ最近蔣ヨリ機微ナル關稅案ニ付テハ充分注意

方ノ希望申入ニ接シ二十七日汪兆銘ヨリモ懇談ヲ受ケ且

ハ貴官ヨリノ話モアリ(大臣宛電第五〇一號)孫科ハ立

法院組織中ニ中政會議ニテ特例ヲ設ケル場合ニハ立法院
ニ附議スルコトヲ省略シ得トノ辦法ニ依リ二十七日中政

三、之ヲ要スルニ日本側トシテ勿論御不滿ナルヘキモ閣下ノ

御努力ナレハコソ又汪院長カ外交部長タルカ爲之レ丈ケ

ノコトモ出來タル譯ナレハ到底之レ以上ノ引下ヲ行ヒ難

キ前記事情御諒察ノ上是非之ニテ我慢アリタシト繰返シ

述ヘ居タリ

尙唐ハ都合付カハ明ニ十九日赴滬親シク閣下ニ申上クヘ

シト述ヘタリ

大臣、北平ヘ轉電セリ

尙唐ハ都合付カハ明ニ十九日赴滬親シク閣下ニ申上クヘ

シト述ヘタリ

上海へ轉報アリタシ

131 昭和9年6月29日 在南京須磨總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

關稅率改訂案は立法院への付議を省略して原
案通り公布される見通しとの情報について

南京 6月29日後発
本省 6月30日後着

第七五一號(極秘)
本官發支宛電報

第七四〇號

132 昭和9年6月30日 在中國有吉公使より
廣田外務大臣宛(電報)

新關稅率實施期日にに関する情報について

上海 6月30日後発
本省 6月30日後着

⁽¹⁾ 第五三六號(至急、極秘)
第五三四號ニ關シ

右ハ低關稅率外國爲替ノ低落及諸外國ノ「ダンピング」ニ
依ルモノナリ從テ國內ニ於ケル外國製日用品消費者ハ何等
不便ヲ感セサリシ次第ニシテ關稅率ノ增加ハ國內消費者ノ
利益ヲ害ストノ論ハ日本側ノ政策的宣傳ニ過キス

凡ソ關稅ノ低減ニハ國內代用品ノ有無ヲ酌量スルヲ要ス支
那貿易界ノ現狀ハ自國工場ノミニテハ其ノ全能力ヲ擧クル
モ國內ノ需要ヲ満タスニ足ラサルニ在支日本工場製品ノ壓

迫ニ依リ操短ヲ餘儀無クサレ居レリ之カ救濟ノ爲綿布關稅
ノ增加及運賃ノ低減ヲ考究中ナリシニ突然綿布輸入率ノ減

稅ヲ見タリ右ハ國內產業保護ト矛盾セル政策ニシテ其ノ理
由何處ニ在リヤ吾人ハ當局カ國民ニ對シ満足ナル説明ヲ與
ヘン事ヲ望ムモノナリ

右漢字紙ノ論調ニ對シ英字紙ハ論說ヲ以テ何レモ值上ヲ攻
撃シ居レリ即チ「ノース、チャイナ、デーリー、ニュース」
ハ新稅率カ關稅收入ヲ出來得ル限り多クセントスル考ニ出
テタルコト及舊稅率同様非科學的ナルモノナリトノ結論ヲ
ナササルヲ得ス綿製品、海產物等ニ付減稅ヲ見タルモ右ハ

日本ニ關係深キ品ニシテ外交的理由ニ基クモノナリトス素
ヨリ外國側ハ右減稅ニ均霑シ得ルヲ以テ差別待遇ト云フヘ
受ク可キニ拘ラス日本關係品ハ減率セラレタルモノ多シト
語リ又六日上海ニ於テ「サジ」ハ日本ハ綿製品及海產物ニ
於テ年額概算二百萬圓ヲ超ユル減率ヲ得タリト看做サルル
ニ拘ラス英國關係品ニ付ハ僅ニ「ウーレン、ピース、グ
ッズ」ニ多少ノ減率ヲ爲シタルモ「ウーレン、ヤーン」ノ
下等製品ヲ引上ケ(上等品ハ多少減率セラレ居ルモ)又機
械、化學製品、鐵製品等英國關係品ノ引上ヲ見タルモノ鮮
カラス爲ニ上海方面英國商人中ニハ今次ノ改訂ハ日本外交
ノ成功ト爲スモノ多シト語レリ

支、北平へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

136 昭和9年7月28日 在上海石射總領事より
広田外務大臣宛(電報)

棉花輸入税の引上げに對し在中国本邦紡績業
者より孔祥熙に引下げ方陳情について

本省 7月28日後着

キニ非サルカ實質的ニハ日本ニ特ニ有利ナリト冒頭シタル
後農業機械ニ對スル値上カ農村振興ト云フ國民政府ノ方針
ト矛盾スルコト電信電話機械ニ對スル增稅カ交通發達ノ趣
旨ニ反スルコト及運動品具ニ對スル増稅ヲ非難シ上海「タ
イムス」ハ貿易額ノ減少ニ拘ハラス關稅收入ヲ增加セント
試ミタルヲ攻擊シ居レリ

北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

135 昭和9年7月8日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

新聞稅率は日本側にのみ有利との歐米側評価

について

南京 7月8日後発
本省 7月8日後着

第七八三號
往電第七八二號ニ關シ

新稅率發表後當方面ノ各國側代表者ハ日本側ノミニ特別有利ナル改訂ヲ見タリト本官ニ内話スルモノ多ク現ニ「ペツク」ハ棉花及鐵製品ニ於テ米國ノ對支貿易ハ餘程惡影響ヲ

廿七日ノ船津ノ談ニ依レハ今回ノ輸入新稅則實施ニ當リ棉
花ノ輸入稅ヲ一舉ニ四割三分方引上ケタルハ在華紡績ニ取
リ大打擊ナルニ付同業會ニ於テモ英國側ト聯絡シ反對運動
ヲ起シ本月十三日附孔財政部長宛陳情狀ヲ送致シ棉花ニ對
スル輸入稅引上ハ國民政府ノ所期スル農民救濟ト關稅增收
ノ目的ヲ達スル能ハサル所以ヲ指摘シ且十九日直接孔財政
部長ニ面會種々陳情セル處孔部長ハ今回ノ稅率引上ハ農民
保護其ノ他ノ見地ヨリ政府ニ於テ慎重考慮セル結果ニシテ
全然再考ノ餘地ナシトテ取合ハス又華商紗廠聯合會、上海
市商會等支那側團體ノ請願團モ同日孔部長ヨリ素氣ナク擊
退セラレタル由ニシテ同業會側ニ於テハ本稅率引下運動ハ
目下ノ所殆ト成功ノ見込ナシト諦メ居ル趣ナリ
北平、南京、天津、青島、漢口、廣東、福州へ轉電シ、支
ヘ轉報セリ

137 昭和9年10月2日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

輸出綿糸に対する棉花輸入税の一部払戻しに關
し関係部局で協議中との関務署長内話について

上 海 10月2日後発
本 省 10月2日後着

138 昭和9年10月24日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)
輸出綿糸に対する棉花輸入税の一部払戻し実施が確実になつた旨唐有壬内話について

第八〇五號(極秘)

閣下宛在上海總領事發公信八月八日附機密第九〇八號ニ關シ

約一月前沈關務署長ハ堀内ノ質問ニ對シ財政部トシテハ本件戻税(棉花ニ對スル輸入税ノ増額ノ部分丈ヲ限度トスル趣ナリ)ヲ與フルコトニ大体意見ヲ纏メ目下關係部局ト協議中ナルガ近ク實施ノ運トナリ得ヘキモ本件ガ日本側ノ希望ニ基ク旨萬一知レル時ハ反対者ノ運動ニ依リ事ヲ破ルヘキニ付貴官限リ極祕ノ御含ニ止メラレタシト内話シ居タルカ數日前同人ハ船津ニ對シ茲一週間許リニテ實現シ得ヘシト内話シタル趣ナリ

本件絶對ニ外部ニ漏レサル様致度シ

北平、南京、天津、青島、漢口へ轉電シ上海へ轉報セリ

南京 10月24日後発
本 省 10月24日後着

第一〇二四號(極秘)
本官發支宛電報

第一〇一六號
八月中旬船津來寧其ノ後モ各方面ニ運動中ナリシ日本關係紡績會社輸出綿糸ニ對スル棉花輸入税ノ一部拂戻ノ件ニ付二十四日唐有壬ハ二十三日ノ行政院會議ニ於テ二十三番手以上ノ綿糸輸出ノ場合ニハ現在五金單位トナレル棉花輸入税ヲ舊税率通り即チ三、五金單位トシ差額一、五金單位ヲ拂戻スコトニ一致ヲ見技術的細目カ更ニ分科會ニ附議セラレタルモ右ノ通り決定ヲ確實ト見ラルト語リ居タリ

大臣へ轉電セリ

5 中国排日問題

139 昭和9年1月18日 在漢口清水總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

沙市における排日團体民衆救国会は活動が振るわず近く解散する見込みについて

漢 口 1月18日後発
本 省 1月18日後着

第七號

沙市發本官宛電報

第四號

大臣へ轉電アリ度シ

第二號

當地唯一ノ排日團体タル民衆救國會ハ黨部後援ノ下ニ公私各方面ヨリノ強制的寄附ニヨリ辛ウシテ其ノ命脈ヲ維持シ居リタルカ一方年來ノ匪害水災及一般的不況ノ爲極度ノ窮況ニ陥リ居ル一般農商民ノ該會ニ對スル反感漸次高マリ來

タリ土貨及日貨ノ賣買ヲ阻害スル該會ノ排日行爲ハ當地方ノ經濟的自殺ニ外ナラストノ聲ヲ聞クニ至リ又他方當館ニ